

開講開始年度	2021
授業コード	1YA1160
担当教員	関 健介
科目	情報処理論
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	<p>③ 情報処理は「データの収集」、「データの処理・解析」そして「情報の発信」まで一連の流れで行われ、特にこの科目では「データの処理・解析」をメインとする。現在社会ではコンピュータやインターネット環境の利用は様々な場面で必須となっており、卒業後はもちろんのこと、在学中でも情報の収集、データの処理や解析、プレゼンテーションなどで PC や IT 環境を利用する機会が多い。</p> <p>本科目は、実際に PC を使った演習形式が中心となり、今後 PC を使っていくに当たって必要な知識や技術を身につけられるように進めていく予定です。</p> <p>データサイエンスについて、演習以外の内容は、オンデマンドを併用して解説する。オンデマンドでは、1. 社会におけるデータ・AI 利活用(社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向)、2. データリテラシー(データを読む、データを説明する、データを扱う)、3. データ・AI 利活用における留意事項(データ・AI を扱う上での留意事項、データを守る上での留意事項)を解説する。</p>
学位授与方針の関連 到達目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(5)自ら学び続ける力</p> <p>看護・養護職の専門性を継続して発展させるために必要な批判的・論理的思考を身につけるとともに、キャリアデザインを描くことができる。</p> <p>① 《一般目標(GIO)》</p> <p>情報処理の基本原則を理解した上で実際に PC などを使い情報の収集から処理、情報の発信ができるようになる。特に一般的に多く利用されているビジネスソフトについては、一通りの基本作業ができるようにする。また PC を使ったデータ処理以前に、データの質を見極め、それぞれに応じた処理・解析方法を適切に選択する事ができるようになる。</p> <p>《個別目標(SBOs)》</p> <p>①コンピュータの基本構造:当科目ではハードに関してあまり深くは講義しないが、PC を使うに当たって必要となる各種装置の名称や基本的な役割は十分に理解し、適切な操作ができる。</p> <p>②Windows の基本的な操作:データファイルの移動や削除、アプリケーションからファイル開いたり、保存するといった基本操作ができる。</p> <p>③情報の処理:主にエクセルを使ってデータを処理できるようにする。特にデータの検索や並び替え、および計算(関数の利用を含む)など実際にデータ処理する際に必要な基本操作はできるようにする。また、簡単なデータ解析を実施し解析結果の見方や捉え方を理解する。</p> <p>④情報の発信:収集、処理したデータを使って、パワーポイントによるプレゼンテーションや、ネット上への情報発信方法の基本を理解し、簡単な操作ができる。</p> <p>⑤データサイエンスの基礎を修得し、データサイエンスについて概説することが出来る。</p>
授業計画	<p>*** <担当教員> ***</p> <p>⑥ 関 健介</p> <p>オンデマンド担当:大森 拓哉、坪下 幸寛、吉田 清隆、橋本 晃生</p> <p>*** <授業計画> ***</p> <p>②④ 1.授業概要・データ収集・「講義・演習・質疑応答」</p> <p>情報処理の流れや利用、その重要性について理解し、基本的な PC の使用ができるようになる。</p>

2.PowerPoint の基礎・「講義・演習・質疑応答」

パワーポイント上のスライドに文字や画像を組み込み、複数のスライドを用意しプレゼンを行う。

3.EXCEL 演習 1「グラフの作成」・「講義・演習・質疑応答」

使用するデータや伝えたい内容等から最適なグラフを選択し、EXCEL 上で作図する。

4.課題の実施 1「グループ作業:関連性の検討」・「講義・演習・質疑応答」

2 種類のデータ間での因果関係を見るための方法を考え、また、実際に検討し因果を見る。

5.課題の実施 2「グループ作業:プレゼン資料の作成」・「講義・演習・質疑応答」

前回検討した内容に関して、パワーポイントにまとめて実際にプレゼン資料を作成する。

6.EXCEL 演習 2「関数・連続コピー、絶対参照」・「講義・演習・質疑応答」

簡単な関数(abs,sqrt,sum,average,stdev.s(p)等)、連続コピー、絶対参照等の処理を行う。

7.EXCEL 演習 3「条件関数」・「講義・演習・質疑応答」

条件関数(if,countif,sumif,averageif,averageifs 等)の関数を使ったデータ処理を行う。

8.実技試験、EXCEL 演習 4「データの並び替え」・「講義・演習・質疑応答」

EXCEL 操作に関する実技試験を実施。EXCEL にてデータ集約・集計等を行う場合に必要となるデータの並び替え(ソート)処理を行う。

9.EXCEL 演習 5「ピボットテーブル」・「講義・演習・質疑応答」

EXCEL にてデータ集約・集計等を効率的に行うピボットテーブルの使い方を学び、実際に処理する。

10.EXCEL 演習 6「EXCEL 操作総復習」・「講義・演習・質疑応答」

これまでの内容を総括し、連続データから度数分布票を作成したり、ヒストグラムを作成したりする。

11.基礎統計 1「データのばらつき」・「講義・質疑応答」

質的データ・量的データそれぞれでデータ入手時に行う基本処理の方法と意味について学ぶ。

12.基礎統計 2「尺度および検討方法」・「講義・質疑応答」

データに応じた処理方法と2 因子間における因果関係検討方法についての基礎を理解する。

13.課題の実施 3「個人作業:基礎解析」・「講義・演習・質疑応答」

実際に得られたデータや情報を収容し、因果関係の検討につながるための準備処理を行う。

14.課題の実施 4「個人作業:関連性の検討」・「講義・演習・質疑応答」

実際に得られ、準備が整ったデータを使用し、作図を含めた因果関係の検討を行う。

15.課題の実施 5「個人作業:プレゼン資料の作成」・「講義・演習・質疑応答」

これまでの検討結果等を使って各自でプレゼン用に資料をパワーポイントを使って作成・提出する。

★フィードバック方法:授業内に実施した試験に関しては、授業内(出来れば次回)に解説等を実施する。また、提出課題に関しても、出来の良かったものを中心に紹介するなど成果の共有を図る予定である。

<オンデマンド授業>

オンデマンド授業の視聴については、授業進行との兼ね合を考慮した上で適時指示する。

視聴後、オンデマンド授業内容について試験を実施する。

1. 社会におけるデータ・AI 利活用[講義]

社会で起きている変化と活用されているデータ。AI の活用事例

2. データ・AI 利活用のための技術[講義]

AI 利活用の現場と最新の動向について

3. データリテラシー・データを読む[講義]

データを読解について

4. データリテラシー・データを扱う[講義]

データの取り扱いと活用

	<p>5. データ・AI 利活用における留意事項[講義]</p> <p>データや AI の利活用と留意点について</p> <p>★フィードバック方法:授業内試験のフィードバックや質問等のサポートは、WEB 等オンラインで行う。</p>
<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p>	<p>1. 予習:学内の e ラーニングサイト「http://ito1.kyorin-u.ac.jp/2007oftk/nav/products_ex.htm」にアクセスし、一通り目を通す。</p> <p>2. 予習:学内の e ラーニングサイト「http://ito1.kyorin-u.ac.jp/2007oftk/nav/products_pp.htm」にアクセスし、一通り目を通す。</p> <p>3. 予習:学内の e ラーニングサイト「http://ito1.kyorin-u.ac.jp/2007oftk/tips/ex_tips/07ex_tips035.htm」にアクセスし、一通り目を通す。</p> <p>4. 予習:ある事象(結果)に関して、その原因を見つけるには、どのようにすれば良いかを考えておく。</p> <p>5. 予習:2 つのグループのデータが「明らかに違う」とはどのような場合か考えておく。</p> <p>6. 予習:EXCEL の「絶対参照」はどのような時に使用すると便利な機能なのかを調べておく。</p> <p>7. 予習:EXCEL 関数の「countif」、「averageif」について、事前に調べておく。</p> <p>8. 予習:学内の e ラーニングサイト「http://ito1.kyorin-u.ac.jp/2007oftk/tips/ex_tips/07ex_tips006.htm」にアクセスし、一通り目を通す。</p> <p>9. 予習:EXCEL の「ピポットテーブル」とはどのような機能なのかを事前に調べておく。</p> <p>10. 予習:EXCEL 操作全般で理解出来ていない点を纏め、質問できるように準備しておく。</p> <p>11. 予習:「バラツキ」とはなにか、それを知ることを意味を考えておく。</p> <p>12. 予習:様々なメディアから幾つかの「データ」をピックアップし、それらを自分なりの方法で分類してみる。</p> <p>13. 予習:データの特徴を示すには、何を提示すればよいか、尺度別に考えておく。</p> <p>14. 予習:因果関係を検討する方法を尺度別で考えておく。</p> <p>15. 予習:見やすい資料を作成する上で注意すべき点を確認しておく。</p> <p>※1-15. 復習:授業内で処理出来なかった事項は次回までに各自で行う。また、理解出来なかった点を次回の授業で質問するよう準備する。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする</p> <p>※全体として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学習:PC 室で実機を使った演習形式で授業を行うので、WindowsPC の基本的な操作方法ができるようにはなっておいてください。Windows・アプリケーションソフトの起動・終了や文字入力などは全員ができるものとして進行します。当然ですが、学内の PC に Login できるようにしておいてください(ID とパスワードの確認)。また、携帯メール以外のメールアドレスも出来れば用意しておいてください。また、データ処理の際には統計学的な知識が必要な事も多いです。統計学関連の科目を履修した者は、その復習をしておいてください。 ・復習:本科目のような演習形式の科目では実際に手を動かし復習する事が重要です。授業中に配布した練習用ファイルを使って、処理できるようになるまで、何度も繰り返し復習してください。また、分からないままにしておくと、次回以降ついて来られないので、その日の内に解決するよう心がけてください。 <p>オンデマンド授業について</p> <p>下記テキストの各章を予習し、視聴後ノートを完成する。</p> <p>※授業外学習時間は、60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
<p>テキスト</p>	<p>特になし。</p> <p>データサイエンス入門第2版 ISBN978-4-7806-0730-7 学術図書出版社</p>
<p>参考書</p>	<p>特になし。</p>

<p>⑦</p> <p>成績評価の方法・ 基準</p>	<p>定期試験実施:無 再試験実施:有(持込 不可)</p> <p>成績評価方法:授業期間内に実施する実技試験及び提出課題の総点で評価する。試験と課題の得点配分は40:60程度を考えているが、詳細は授業時間内に案内する。合格点に満たない場合は、再試験を実施する。実技試験の内容は、EXCEL操作によるデータ処理が中心となる。</p> <p>また、学則通り全体の2/3以上の出席は試験を受けるために必須であるが、当科目は演習が中心となるので、欠席や遅刻は評価点から減点することもあるので注意する。</p> <p>オンデマンド授業の試験評価は、授業内試験に含まれる。</p>
<p>URL</p>	
<p>備考</p>	<p>《実務経験のある教員による授業科目》</p> <p>科目代表教員の実務経験有無:無</p>

開講開始年度	2021
授業コード	1YA1390
担当教員	照屋 浩司
科目	保健統計
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	③ 公衆衛生活動を実践するためには、対象である集団の特性を把握する必要がある。地域保健活動で用いられる様々な保健統計について、その作成方法、利用方法、近年の動向について解説するとともに、統計学的解析の基礎、文献調査法などについても解説する。あわせて、疾病や健康事象の原因を探り予防に役立てるだけでなく、保健・医療・福祉サービスの効果を評価するためにも重要な現代疫学を理解するのに必要な基礎知識についても解説する。
学位授与方針の 関連 到達目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(2)科学的根拠に基づく看護実践能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的・批判的思考に基づき、自ら問題を発見し、課題を解決できる。 ・専門的な知識と技術および態度を身につけ、対象の個性に応じた看護を実践できる。 <p>(4)チームで働く力</p> <p>専門職としての役割と責任を自覚し、互いに尊重し合い、多職種と連携・協働することができる。</p> <p>(5)自ら学び続ける力</p> <p>看護・養護職の専門性を継続して発展させるために必要な批判的・論理的思考を身につけるとともに、キャリアデザインを描くことができる。</p> <p>① 《一般目標(GIO)》</p> <p>保健統計および疫学を理解するのに必要な基礎知識について理解する。</p> <p>《個別目標(SBOs)》</p> <p>① 様々な保健統計について、その作成方法、利用方法、近年の動向について理解する。</p> <p>② 統計学的解析の基礎、文献調査方法などについて修得する。</p> <p>③ 疫学的なものの考え方の基礎的事項について理解する。</p>
授業計画	<p>*** <担当教員> ***</p> <p>⑥ 照屋 浩司、岡本 博照、関 健介</p> <p>*** <授業計画> ***</p> <p>②④ 1.統計制度と情報システム、人口静態統計[講義・小テスト・質疑応答](照屋)</p> <p>既存統計資料の活用の仕方、人口静態統計(国勢調査)データの実際について学ぶ。</p> <p>2.人口動態統計[講義・小テスト・質疑応答](照屋)</p> <p>人口動態統計の概要と、出生・死亡に関するデータの実際について学ぶ。</p> <p>3.主要死因の動向[講義・小テスト・質疑応答](照屋)</p> <p>主要死因による死亡の疫学とその推移の要因について理解する。</p> <p>4.調査技法 標本抽出と調査方法[講義・小テスト・質疑応答](照屋)</p> <p>標本調査についての基礎的な理解と、質問紙調査の概要について学ぶ。</p> <p>5.標準化 年齢調整死亡率と標準化死亡比(SMR)[講義・小テスト・質疑応答](照屋)</p> <p>年齢構成の異なる集団で死亡水準を比較する際の手法である標準化について理解する。</p> <p>6.生命表 平均寿命と健康寿命[講義・小テスト・質疑応答](照屋)</p> <p>平均寿命の算出に用いる生命関数について理解するとともに、健康寿命についても学ぶ。</p>

	<p>7.健康状態と受療状況[講義・小テスト・質疑応答](照屋) 国民生活基礎調査、患者調査などの、健康状態や受療状況の指標となる統計について理解する。</p> <p>8.疫学研究の実例と意義、因果論[講義・小テスト・質疑応答](照屋) 疫学とは何かについて、過去の事例や成果から学び、因果の考え方について理解する。</p> <p>9.危険度の考え方[講義・小テスト・質疑応答](照屋) 相対危険度、オッズ比、寄与危険度、寄与危険割合、集団寄与危険割合など、危険度の考え方を理解する。</p> <p>10.統計分析の実際-1[演習・課題提出・質疑応答](照屋、岡本、関) PC 室にて、模擬データを用い、SPSS を中心とした統計解析ソフトを用いた解析を行う。</p> <p>11.統計分析の実際-2[演習・課題提出・質疑応答](照屋、岡本、関) PC 室にて、模擬データを用い、SPSS を中心とした統計解析ソフトを用いた解析を行う。</p> <p>12.統計分析の実際-3[演習・課題提出・質疑応答](照屋、岡本、関) PC 室にて、模擬データを用い、SPSS を中心とした統計解析ソフトを用いた解析を行う。</p> <p>13.文献調査法-1[演習・課題提出・質疑応答](井の頭図書館スタッフ、照屋、岡本) PC 室にて、医学中央雑誌、PubMed など Web を活用した文献検索演習の基礎を学ぶ。</p> <p>14.文献調査法-2[演習・課題提出・質疑応答](井の頭図書館スタッフ、照屋、岡本) 一般的な Web 検索の活用や注意点、それを利用したレポート作成の基礎を学ぶ。</p> <p>15.まとめ[講義・質疑応答](照屋) 本講の全体について、総括する。 ★フィードバック方法：小テスト、課題等のフィードバックは講義時間内に行う。</p>
<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p>	<p>1.予習:教科書 2-8、14-15、国民衛生の動向 47-55 を読み、ノートにまとめる。 2.予習:教科書 10-11、国民衛生の動向 56-62 を読み、ノートにまとめる。 3.予習:国民衛生の動向 62-71 を読み、ノートにまとめる。 4.予習:教科書 76-77、80-87 を読み、ノートにまとめる。 5.予習:教科書 43-48 を読み、ノートにまとめる。 6.予習:教科書 49-51、国民衛生の動向の該当 81-84 を読み、ノートにまとめる。 7.予習:教科書 16-19、国民衛生の動向 85-91 を読み、ノートにまとめる。 8.予習:教科書 156-159、188-191 を読み、ノートにまとめる。 9.予習:教科書 170-172 を読み、ノートにまとめる。 10-12.予習:資料配布、教科書 76-79、89-112、127-145 を読み、ノートにまとめる。 13-15.予習:資料配布を読み、ノートにまとめる。 1-15.復習:配布資料なども参考に、周辺の領域も含め、ノートにまとめる。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 60 分必要とする。 ※保健統計や疫学の学習は難解であり、親しみにくい領域であると思われる。わかりやすい解説とするので、当日講義予定の項目は、以上に記載の参照ページについて、事前に教科書等で予備的な知識を得るために十分に予習を行うこと。また、配布資料なども参考に、周辺の領域も含め十分に復習すること。パソコンおよび主要なアプリケーションの基本的な操作が可能であることが望ましい。 ※授業外学習時間は、60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
<p>テキスト</p>	<p>「保健統計・疫学 改訂 6 版」ISBN:978-4-525-05336-9 南山堂、教科書ではないが全員が所持すべき参考書「国民衛生の動向」雑誌コード:03854-08(「厚生」の指標)8 月増刊) 厚生統計協会</p>

参考書	<p>「疫学の理論と実践」高島 豊編著、照屋 浩司、小風 暁著 杏林書院 2007 年</p> <p>「しっかり学ぶ基礎からの疫学」柳川 洋、萱場 一則監修 南山堂 2004 年</p>
⑦ 成績評価の方法・ 基準	<p>定期試験実施:有(持込 不可) 再試験実施:有(持込 不可)</p> <p>成績評価方法:定期試験(80%)、小テストやレポート(20%)</p>
URL	
備考	<p>統計解析演習では、各自 USB メモリを持参すること。</p> <p>また、統計解析演習および文献調査演習に関しては集中形式で実施する可能性がある。</p> <p>詳細は事前に指示する。</p> <p>《実務経験のある教員による授業科目》</p> <p>科目代表教員の実務経験有無:有 実務経験に係る保有資格(勤務年数5年以上):医師</p> <p>実務経験をいかした教育内容:医療機関、事業所、役所、学校等で、保健統計業務に従事した経験を活かし、実務経験を反映させた保健統計に関する教育を実施している。</p>

開講開始年度	2021
授業コード	1YA1350
担当教員	照屋 浩司
科目	公衆衛生学
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	③ 公衆衛生学とは「社会における組織的な働きかけにより、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的・精神的機能を増進させる科学であり技術である」と、定義されている。公衆衛生学の領域は多岐にわたっているが、本講では保健学の出発点ともいえる公衆衛生学の基本的技術論、方法論を中心として解説し、年齢階層や、社会的機能集団の各次元で、それぞれの特質に合わせた取り組みについて、実践的な視点からの解説も行う。
学位授与方針の 関連 到達目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(1)各学科に求められる基本的かつ実践的能力 各学科で求められる基本的知識および技術を修得し、これを実践の場で活用することができる。</p> <p>(2)問題解決能力 自ら発見した問題や課題について、科学的かつ客観的に説明を加え、論理的に問題を解決できる。</p> <p>(3)学校における養護実践能力 子供の健康に関するニーズを捉え、学校内外の関係者と連携・協同して子供の健康の保持増進のための調整 よおよび動員することができる。</p> <p>① 《一般目標(GIO)》 公衆衛生学の基本的技術論、方法論について理解する。</p> <p>《個別目標(SBOs)》</p> <p>①公衆衛生学、疫学の基本概念について理解する。</p> <p>②年齢階層や、社会的機能集団の各次元それぞれの特質に合わせた取り組みについて理解する。</p>
授業計画	<p>*** <担当教員> ***</p> <p>⑥ 照屋 浩司、大嶺 智子、大久 朋子、岡本 博照、片桐 朝美、石野 晶子、関澤 浩一、楠田 美奈</p> <p>*** <授業計画> ***</p> <p>②④ 1.地域社会と公衆衛生[講義・小テスト・質疑応答](照屋) 健康の概念、公衆衛生学の概念、予防医学の考え方について、その歴史的背景もふまえて学ぶ。</p> <p>2.疫学的なものの捉え方とは[講義・小テスト・質疑応答](照屋) 疫学の考え方、疫学指標、危険度(相対危険度、寄与危険度、オッズ比)について理解する。</p> <p>3.人口統計からみた地域と世界[講義・小テスト・質疑応答](照屋) 人口静態統計、人口指標、人口ピラミッド、高齢化と少子化について、地域・世界を比較して学ぶ。</p> <p>4.地域における保健栄養学的課題[講義・質疑応答](大久) 国民健康栄養調査、食糧需給表などから食習慣、栄養摂取状況などについて学ぶ。</p> <p>5.地域と福祉[講義・質疑応答](片桐) 福祉・介護制度の概要、介護保険、介護保険サービスの基礎的事項を理解する。</p> <p>6.母子保健[講義・質疑応答](石野) 母子保健の課題、母子保健事業などについて学ぶとともに、国の施策や法案についても理解する。</p> <p>7.学校保健[講義・質疑応答](大嶺) 学校保健の概要について理解し、学校保健統計調査、学校感染症についても学ぶ。</p> <p>8.身近な遺伝問題と健康[講義・質疑応答](関澤)</p>

	<p>身近な遺伝問題と健康のかかわりについて理解するための、基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>9.精神保健[講義・質疑応答](岡本)</p> <p>ストレス、ストレスマネジメント、精神疾患・自殺の現状や予防対策について理解する。</p> <p>10.生活習慣病予防の取り組み[講義・質疑応答](照屋)</p> <p>主な生活習慣病の特徴、統計、その現状や予防について学ぶ。</p> <p>11.地域における環境課題[講義・質疑応答](照屋)</p> <p>公害や地球規模の環境問題について、基礎的事項を理解する。</p> <p>12.産業保健学概論[講義・質疑応答](楠田)</p> <p>労働衛生の基礎的事項、労働安全衛生対策、特定健康診査・特定保健指導などについて学ぶ。</p> <p>13.地域保健[講義・質疑応答](岡本)</p> <p>保健所、地域保健センターなど、地域レベルでの保健対策について理解する。</p> <p>14.保健統計 1[講義・小テスト・質疑応答](岡本)</p> <p>人口動態統計の概要、出生、死亡に関するさまざまな指標やデータについて学ぶ。</p> <p>15.保健統計 2[講義・小テスト・質疑応答](岡本)</p> <p>国民生活基礎調査、患者調査などの傷病統計の概要とデータについて理解する。</p> <p>★フィードバック方法:小テストのフィードバックは講義時間内に行う。</p>
<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p>	<p>1.予習:教科書 P2-P6、P10-P15 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>2.予習:教科書 P68-P69、P73-P83 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>3.予習:教科書 P35-42 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>4.予習:教科書 P62-P65、P111-P114、P149 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>5.予習:教科書 P206-P212 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>6.予習:教科書 P216-P224 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>7.予習:教科書 P63、P237-P242 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>8.予習:事前に資料配布を行うので目を通しておくこと。</p> <p>9.予習:教科書 P129-P132、P136-P142、P188-P194 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>10.予習:教科書 P153-P173 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>11.予習:教科書 P16-P23 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>12.予習:教科書 P229-P237 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>13.予習:教科書 P211-P216 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>14.予習:教科書 P41-P51 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>15.予習:教科書 P53-P63 を読み、ノートにまとめる。</p> <p>※1-15.復習:配布資料なども参考に、周辺の領域も含めノートにまとめる。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 60 分必要とする。</p> <p>※公衆衛生学の領域は多岐にわたっており、オムニバス形式の講義でもあることから、断片的な学習となることが懸念される。当日講義予定の項目は、以下に記載の参照ページについて、事前に教科書で予備的な知識を得るために十分に予習を行うこと。</p> <p>※授業外学習時間は、60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
<p>テキスト</p>	<p>「エッセンシャル 社会・環境と健康 第 2 版第 11 刷」、ISBN:978-4-263-70497-4、医歯薬出版</p>

参考書	「国民衛生の動向」厚生統計協会、「最新臨床検査学講座 公衆衛生学 第1版 第5刷」照屋浩司、川村堅 著 医歯薬出版 2019年
成績評価の方法・ 基準 ⑦	<p>定期試験実施:有(持込 不可) 再試験実施:有(持込 不可)</p> <p>成績評価方法:定期試験(90%)、レポート・小テスト(10%)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>定期試験実施:無 再試験実施:無</p> <p>成績評価方法:毎回の授業後課題提出状況および内容による評価(100%)</p> <p>※2021/5/29 修正済み</p>
URL	
備考	<p>《実務経験のある教員による授業科目》</p> <p>科目代表教員の実務経験有無:有 実務経験に係る保有資格(勤務年数5年以上):医師</p> <p>実務経験をいかした教育内容:医療機関、事業所、役所、学校等で、公衆衛生業務に従事した経験を活かし、実務経験を反映させた公衆衛生学に関する教育を実施している。</p>